

【事例 5】西京銀行（山口県）

～企業視察と観光を組み合わせた定住人口増加施策～

【事例5】西京銀行（山口県） ～企業視察と観光を組み合わせた定住人口増加施策～

西京銀行は、山口県との共催により、2015年9月8日から9月10日の3日間、全国の大学生を対象とした山口県内の企業視察と観光を組み合わせたツアー「若旅 in やまぐち 2015」を開催した。同ツアーは、山口県内における観光と県内企業の視察を同時に行うことで、県内交流人口の増加、就労・定住の促進および観光市場の活性化等を企図したものである。

なお、「若旅 in やまぐち」は、広島経済大学が設置している「興動館教育プログラム」において、同大学の学生が発案した「若旅促進プロジェクト」から着想を得たものであり、2013年9月に、県内企業、中国運輸局、山口県、各大学、および株式会社 JTB 中国四国と連携した第1回目のツアーが催行されて以来、毎年実施されている。

<取組みの概要>

- ・西京銀行が中心となり、訪問企業の選定や関係者との調整等を実施。
- ・第3回目の開催となった「若旅 in やまぐち 2015」は、第2回目までとは異なり、県内を東西に分けて2コースを用意したほか、行程に農業法人における就農体験を加えるなどの工夫を行った。また、参加者の満足度を高めるため、事前に広島経済大学の学生と訪問候補先の視察を行った。

<成果>

- ・参加した学生の中から、訪問企業への就職者および内定者が生まれている。また、参加大学において「若旅 in やまぐち」が周知されたこと等をきっかけに、参加していない学生の中からも内定者が生まれている。
- ・2014年、若者旅行振興への取組みとして、観光庁の第2回「若者旅行を応援する取組表彰」において「奨励賞」を受賞したほか、都市と農村漁村を往来する新たなライフスタイルの普及や定着化を図る活動として、農林水産省の「オーライ！ニッポン大賞」において「フレンドシップ賞」を受賞した。



株式会社瀬戸内ジャムズガーデンにおける
就農体験の様子



訪問先の株式会社長府製作所における見学の様子

西京銀行の取組みに関し、西京銀行、山口県、株式会社 JTB 中国四国、株式会社カシワバラ・コーポレーション、および広島経済大学の声をご紹介します。



西京銀行

本店所在地 : 山口県周南市平和通 1 丁目 10-2
設 立 : 1930 年 11 月 17 日
預金残高 : 1 兆 1,382 億円 (譲渡性預金を除く)
貸出金残高 : 8,592 億円
従業員数 : 740 名 (平成 27 年 3 月 31 日現在)
店舗数 : 本支店 (店舗内を除く) 44 (山口県 39、福岡県 3、広島
県 2)、出張所 (店舗内を除く) 1 (山口 1)
URL : <http://www.saikyobank.co.jp/>

(2015 年 9 月末現在)

山口県周南市に本店を置く西京銀行は、山口県全体の活性化に向けて、地域に密着し、様々な独自性のある企画を実行に移していく「地域連携部」を中心として地方創生に向けた活動を推進している。例えば、ソーシャルビジネスに特化した、S1 グランプリ (地域社会課題解決ソーシャルビジネスアイデアプランコンテスト) のほか、医療・介護分野に特化した支援や、海外向けビジネスセミナーの開催などその業務領域は多岐にわたる。

こうした取組みのうち、今回は、企業視察と観光を組み合わせた地域活性化に向けた取組みである「若旅 in やまぐち」について、地域連携部で本プロジェクトに携わっている赤井係長にお話を伺った。

—「若旅 in やまぐち」の目的は。

もともとは、若者の旅行離れを防ぐことを目的に、広島経済大学の学生が、「観光プラス就活」という切り口でツアーを発案し、同大学と中国運輸局が連携してスタートした「若旅促進プロジェクト」が始まりです。

そして、同プロジェクトについて広島経済大学の学生による旅行会社向けのプレゼンテーションに、日頃からつながりがある同大学の川村教授 (キャリアセンター部長) の呼びかけを受けて当行が同席していました。事業性が乏しく商品化は難しいレベルでしたが、若者が山口県に訪れ、就職につながれば定住人口の増加、ひいては地域活性化にも結び付くと思ひ、若旅の山口県版として「若旅 in やまぐち」を始めることにしました。産学公金の取組みであり、最終的には収益事業として成立させることが目標です。

—「若旅 in やまぐち」における貴行の役割は。

訪問企業の選定、工程の作成、スケジュー

ル調整および運営費の一部負担を含め、企画全体のコーディネートを行っています。

企画を開始した当時は、学生と一緒に旅行業法を一から学ぶなど、JTB 中国四国と協力して商品化に結び付けるまで苦労もありました。

—「若旅 in やまぐち」において貴行が実施している工夫は。

2015 年には広島経済大学の学生と視察旅行を重ね、観光ルートの魅力を高める工夫をしました。

また、従来は県全体でひとつのツアーでしたが、山口県を東西に分けて 2 つのツアーにすることで効率的に観光地や企業を回るができるように工夫しました。

今後も、参加対象の学生を理系・文系に分けたり、女性限定とするなど様々なバリエーションが考えられると思ひます。

また、ツアーを魅力的にするためには学生の知恵が非常に重要であると感じます。学生

の意見をしっかり盛り込めるよう、大学とは一層連携を強化していきたいと考えています。

—「若旅 in やまぐち」で訪問する企業の選定基準は。

まず、県内の優良な「オンリーワン企業」であること、大学生の採用に前向きなことが前提条件です。また、財務内容に加えて、日頃お取引する中で感じる企業の雰囲気や経営者のお人柄等を総合的に勘案して決定しています。銀行が企業を選ぶことで参加者の学生にとっては安心感があると思います。

—「若旅 in やまぐち」の実績は。

毎回 25～30 名の参加者で推移しています。就職活動を控えた学生だけでなく、他学年からの参加も見られます。2013 年のツアーに参加した学生のち、実際に訪問先企業や当行へ就職した方もいます。

また、2014 年には、観光庁から、若者旅行振興への取組みとして、第 2 回「若者旅行を応援する取組表彰」において「奨励賞」を受賞したほか、農林水産省から、都市と農村漁村を往来する新たなライフスタイルの普及や定着化を図る活動として「オーライ！ニッポン大賞」において「フレンドシップ賞」を受賞しています。

—訪問先企業からの「若旅 in やまぐち」の評判は。

企画の趣旨に賛同いただいた企業からは協賛金 3 万円をいただいて運営しているため、協力関係を構築できていると思います。また、ツアーの催行後は学生からの感想等をまとめて企業側にフィードバックする取組みも行っています。そのため、企業側からは学生の視点からどのように自社が見られているか、客観的に捉えることができるためメリットを感じていただいています。

また、近年の就職市場は売り手市場で、企業にとって優秀な学生に早期に接触したいというニーズが高まっています。そのため、若旅の企画に参加したいと地元企業から依頼されるケースも増えています。

—「若旅 in やまぐち」の課題は。

集客が課題です。現在は山口県内や近隣県からの参加がメインであり、関東や関西の学生による参加が少ないのが現状です。周知不足もありますが、山口県への往復交通費が高額である点がネックになっていると思います。

—関係機関との連携を維持・深化していくうえで日頃から取組んでいることは。

産学公金の連携を意識的に進めています。その中で、銀行はファイナンスのプロであるため、様々な支援をしますが、専門性の高い事業計画や製品開発について疎い部分があるため、他機関との連携が重要となります。

例えば、大学と連携して専門分野の教授と事業計画等の検討を行うほか、商工会議所と連携してセミナーや創業塾も開催しています。

また、創業グランプリ（通称 S1 グランプリ）を開催し、審査員として取引先の企業を招き、創業企業とビジネスマッチングの機会を提供して関係を強化しています。

（2015 年 11 月 24 日）



山口県

総面積 : 6,114 km²

人口 : 約 140 万人

世帯数 : 603,124 世帯

URL : <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/>

(2015 年 12 月現在)

山口県は、今後の県政運営の指針となる「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」を 2015 年 3 月に策定している。このチャレンジプランの目的は、人口減少・少子高齢化社会に対応し、「活力みなぎる山口県」を実現していくことで、プランに沿った様々な地域活性化策を推進している。

今回は、西京銀行と共催しているツアーである「若旅 in やまぐち」について、商工労働部労働政策課の原田主幹、商工労働部観光振興課観光企画班の池田主幹、総合企画部政策企画課政策班の深見主査にお話を伺った。

—「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」で定めている人材活力総合戦略「みんなが活躍できる地域社会の実現プロジェクト」とは。

山口県では、女性をはじめ、若者、高齢者、障害者など多様な人が地域において、いきいきと活躍することができるよう、仕事と子育て等を両立できる環境づくりや雇用の場の確保、文化・スポーツの振興など、みんなが活躍できる地域社会の実現を推進するため、このプロジェクトを策定しています。

山口県が抱える最重要課題である人口減少の流れに歯止めをかけ、活力みなぎる山口県を実現するためには、本県の将来を担う若者が、県内に就職し定着できるよう、しっかりと支援していくことが重要です。

そこで、重点施策のひとつに、「若者を中心とした雇用の場の確保」を掲げ、高校生や大学生等、若者の就職を支援するとともに、新規立地・拡大投資を促進することで雇用の場を拡充し、若者の県内定住の促進を図っています。

このため、様々な施策を推進しており、若者に対するイメージアップにつながる県内中小企業の魅力情報発信機能、機会の充実・強

化に努めています。その取組みのひとつが、「若旅 in やまぐち」のツアーです。

—「若旅 in やまぐち」の取組みに対する評価は。

学生が県内の就職先を選ぶ際に、認知度の観点から、選択肢が官公庁や銀行、大手企業に限られているのが現状です。こうした中、県内企業を訪問するとともに、県内の観光地を訪れる「若旅 in やまぐち」は非常に良い取組みだと思います。また、県が単独でバスツアーを開催するよりも、連携した方が効果的な取組みになると考えており、「若旅 in やまぐち」の共催（2014 年までは後援）をしています。

—「若旅 in やまぐち」において、県外の学生を呼び込むうえで工夫している点は。

関西圏の大学と個別に協定を結んでいるので、そのネットワークを活用してイベントの周知を行い、参加者の増加を図っています。

—地方創生において重要と考えるポイントは。

労働政策の観点からは、人を呼び込むことが地域活性化のためには不可欠です。山口県

の場合、約7割が県外の大学へ進学し、就職時にも約7割は県外へ出ていってしまいます。そのため、県内の学生にとどまってもらうことも大切ですが、県外の学生に働きかけてUターンやIターン等を促すことも非常に重要です。

—学生の県内就職者の増加に向けた課題は。

県内にも社員を募集している有力な企業があることを、まず学生や保護者に知っていただくことが必要だと思います。また、大学のキャリアセンターのスタッフが企業訪問を行い、知見を深めることで、県内大学の学生に地元企業への具体的な就職アドバイスができるようにすることも支援につながると思います。

一方で、県外に出た学生については、就職活動等で山口県へ移動する際の交通費が課題になっていると思います。例えば、福岡県や広島県であれば物理的にも山口県の就職情報を収集しながら就職活動しやすいですが、関東や関西の大学に進学した学生にとっては情報面でも費用面でもネックとなり、インターンシップへの参加やUターン就職等が増加しない要因になるので課題になっていると思います。

—地方創生に関するその他の主な取組みは。

全国各地で地方創生に向けた動きが活発になっていますが、すでに山口県も県内金融機関と地方創生に向けた包括連携協定を締結（西京銀行とは2015年4月に締結）して活動をしています。このほか、COCプラス事業を推進している大学や、地域活性化のために活動している民間企業との連携も進めています。今後も金融機関等と協力して地方創生を推進していきたいと考えています。

(2015年11月25日)

株式会社 JTB 中国四国

本社所在地 : 広島県広島市中区紙屋町 2-1-22 広島興銀ビル 11 階

設立 : 2005 年 8 月 22 日

資本金 : 2 億円

従業員数 : 849 名

URL : http://www.jtbcorp.jp/jp/jtb_group/jtbcs/

(2015 年 1 月現在)

株式会社 JTB 中国四国は、商圏内の魅力ある観光資源を開発し、JTB グループのネットワークを活用して「人」や「モノ」の交流を創出し、地域内における様々な産業の活性化に貢献している。

「若旅 in やまぐち」の取組みについて、徳山支店の平田課長にお話を伺った。

—「若旅 in やまぐち」に対する最初の印象は。

企業訪問と観光地巡りを兼ね合わせている取組みであり、従来の旅行業界にはない斬新なアイデアだと思いました。

一方、当社は観光ツアーのノウハウは豊富にあるものの、肝となる企業訪問については具体的な中身がわからず、ツアーの組成をするうえで不安な点もありました。この点に関しては、西京銀行に日頃の取引関係を生かして主導してもらい、懸念は払拭できました。

このほか、いかに学生にツアーの魅力を訴求していくのが課題だと思いました。そのため、観光ルートの見直しや、農業など体験型のイベントを織り交ぜることで着地型の旅行ツアーになるよう工夫しました。

—「若旅 in やまぐち」の取組みに対する評価は。

企業訪問は西京銀行が構築しているネットワークが生かされており、独自性があります。県外の学生にとっては就職活動を抜きにしても、山口の観光地や企業を知るよい機会になるほか、人脈作りにもつながると思います。

2015 年には西京銀行の提案で山口県を東西に分けて 2 つのツアーを開催したことでバリエーションも広がってよりよくなっています。

一方、学生の集客という観点で依然として

課題も残っていると思います。ツアーを増やすと参加者が分散するため、従来よりも早くツアー内容を告知するなど、積極的に学生へアプローチを行い、多くの学生を集める必要があると思います。

また、関西の大学を中心に就職課を通じてプロモーションを行っていますが、近年は SNS という学生に身近なネットワークがあるため、それを積極的に活用することでツアーの魅力 PR することが効果的だと思います。

このほか、当社としても、販売促進だけでなく、ツアーの認知度向上に向けたツールを作る必要があるかもしれません。

—貴社が「若旅 in やまぐち」に参画するメリットは。

当社は「旅行事業」と「交流事業」を手掛けており、交流事業で顧客ターゲットを広げる取組みを進めています。これは、収益性だけにとらわれず、各地域の皆様の課題を旅の力で解決するという使命を持って取り組んでいるものです。

「若旅 in やまぐち」の場合、地元の法人である西京銀行とパートナーシップを組んで、地元企業への就職促進による定住人口の増加や、観光地への来客数増加により交流人口の拡大にも結び付くため意義が大きく、大切に

していかなければならない事業です。

元の農産物や特産品を国内外に PR する連携事業も行っています。

—地方創生に向けて銀行に期待することは。

当社は、中国銀行などの地域金融機関と包括連携協定を結んで、金融機関が持つ地元企業等とのパイプと、当社が持つ旅のツールを活用して地域に人を呼び込む事業を進めています。また、西京銀行の地域連携部とは、地

今後、着地型の観光ツアーをブラッシュアップして、より地元への定住に結び付くようなツアーを西京銀行と催行する構想もあり、連携を一層緊密にして地域活性化を進めていきたいと思っています。

(2015年11月24日)

若旅 in やまぐち 2015 山口県内オンリーワン企業訪問と観光魅力発見の旅3日間

募集条件 現在在学中の大学生に限りです

【旅行代金】お1人様15,000円 【旅行期間】2015年9月8日(火)～10日(木) 【募集人員】各コース30名(最少催行人数各25名) ※定員に達し次第締め切ります。

【総乗員】同行しません 【食事】朝:2回 昼:3回 夕:2回

【宿泊】西コース…下関グランドホテル(ツイン2名1室) ホテルサンルート 徳山(シングル1名1室)
東コース…サンシャインサザンセット(ツイン2名1室) サ・グラマシー(シングル1名1室) ※夜間・朝飯は指定できませんので予めご了承下さい。※旅行中、モニタリングを実施しますので、ご協力ください。

共催:山口県 後援:一般社団法人山口県観光連盟
協賛:株式会社アタリー/大村印刷株式会社/株式会社カシワバラ・コーポレーション/株式会社瀬戸内ジャムズガーデン/JRC株式会社/大見機械工業株式会社/長州産業株式会社
株式会社長府製作所/株式会社花の海/百土高庄フレキシブルホース株式会社/株式会社アジマ/株式会社ヤチギヤ/山口放送株式会社

旅行企画・実施:JTB中国四国 観光庁長官登録旅行業第1769号 日本旅行業協会正会員 広島市中区紙屋町2-1-22 〒730-0031

【申込先】JTB中国四国 徳山支店 TEL:0834-22-0808 FAX:0834-22-0899 担当:平田・窪橋
〒765-0032 山口県周南市銀座1-12 セマアオビビル2F 営業時間/AM9:30～PM5:30 休業日/土・日・祝 総合旅行業取扱管理者:藤橋輝光
総合旅行業取扱管理者とは、お客様の旅行を成し遂げる責任者です。この旅行の契約に関し、担当者からの説明にご不明な点がありましたら、ご連絡なく上記の総合旅行業取扱管理者にご相談ください。
※上記情報はイメージであり、実際と異なる場合があります。

西京銀行が作成した「若旅 in やまぐち 2015」のチラシ①



株式会社カシワバラ・コーポレーション

本社所在地 : 山口県岩国市山手町一丁目5番16号
創業 : 1949年3月
資本金 : 2億5,010万円
従業員数 : 690名
事業概要 : 大規模プラント設備および橋梁等の塗装工事等
URL : <http://www.kashiwabara.co.jp/>

(2015年10月現在)

山口県岩国市に本社を置く株式会社カシワバラ・コーポレーションは、「若旅 in やまぐち」に第1回から協賛企業として参加している。同社は、創業以来、「塗装」を軸とした事業を展開し、産業インフラの維持・保全を行うほか、独自の技術開発にもチャレンジしている。技術開発から施工ノウハウまでの工程全体において高い総合力を保有し、岩国基地や種子島宇宙センターの設備塗装等を担うなど豊富な実績を持ち、塗装工事業完工高において全国No.1のシェアを誇っている。

「若旅 in やまぐち」について、経営戦略室人事グループで採用担当を務める加藤氏にお話を伺った。

—「若旅 in やまぐち」への参加依頼を受けた時の印象は。

初めてお話をいただいたときは、非常に面白い企画だなという印象が強く、すぐチャレンジしてみようと思い、参加を決めました。

—「若旅 in やまぐち」への参加後の印象は。

各地域の企業にとって、就職活動を控えた学生に対して自社の情報を発信する機会は限られているため、いかに自社のPRを行うのかが大きなテーマです。そのため、「若旅 in やまぐち」は、業務内容や会社の雰囲気を知ってもらうよい機会となっています。

「若旅 in やまぐち」では、当社柏原会長からの挨拶や現場の見学のほか、昼食会を主催しています。昼食会は、食事をとりながら気軽に率直な意見交換ができるため、当社と学生の双方にメリットがあると考えています。

また、「若旅 in やまぐち」に参加した学生が、参加していない学生を採用選考に連れて来てくれたこともあり、その効果を感じています。

—西京銀行に今回の取組みで期待することは。

企業側の都合だけで考えると、ツアー参加者の対象を大学生全体とするのではなく、例えば就職活動を控えた理系学生に限定するようにした方が効率的に就職のマッチングはできると思います。

また、現在は年に1回ですが、時期をずらして女性限定ツアーや理系限定ツアーを催行するなど、複数回実施することで、特色を持たせてもよいかもしれません。

—地方創生において重要と考えるポイントは。

当社が採用活動時に単独でインターンシップを募集しても1名しか学生の応募がないこともありました。

地方の企業にとって、学生を集めることの難しさを実感しており、対外的な情報発信は大きな課題だと感じます。

—「地方創生」に当たり、金融機関に期待することは。

個々の企業では情報発信に限界があるので、



広島経済大学

所在地 : 広島県広島市安佐南区祇園5-37-1
創立 : 1967年1月23日
学部 : 経済学部
大学院 : 経済学研究科
URL : <http://www.hue.ac.jp/>

(2016年2月現在)

広島経済大学は、中国・四国地方唯一の経済専門大学として、1967年に創立された。教育目的として、「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を教育目的としている。

興動人とは、「既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材」のことである。

今回は、こうした人材を育成するために同大学に設置されている「興動館教育プログラム」において学生が発案した「若旅促進プロジェクト」について、キャリアセンターの友松課長と黒瀬係長にお話を伺った。

—貴校の「興動館教育プログラム」とは。

社会で求められている人間力を培うための教育プログラムで、約10年の実績があります。学生が自ら社会的意義のあるプロジェクトを企画し、他団体との交渉や会計などを基本的に全部行うほか、社会的効果や意義までしっかり考えてチャレンジさせることで成長を促しています。学生だけでは限界がある場合には大学が後方支援を行い、失敗したときには原因や改善策などの指導を行っています。

—学生が発案した「若旅促進プロジェクト」に対する最初の印象は。

産官学連携ということで非常に期待していましたし、地域活性化のほか、学生の成長にもつながるプロジェクトだと思いました。そのため、興動館教育プログラムのスタッフ6名でしっかりサポートしていこうと思いました。

—「若旅促進プロジェクト」の活動内容は。

「若旅促進プロジェクト」は、「若旅 in やまぐち」以外にも、例えばJR西日本と連携したプロジェクトも並行して進んでおり、若旅

プロジェクト内でチーム分担して活動しています。その成果のひとつが、JTB 中国四国による「若旅 in やまぐち」のツアー商品化でした。

—「若旅 in やまぐち」の実施による就職状況への効果や、学生の意識変化を感じることは。

2014年の「若旅 in やまぐち」に参加した当大学の4年生が8名おりますが、うち7名がすでに就職先を決定しています。山口県出身者は6名ですが、うち3名が山口県へのUターン就職となっています。このうち、1名は西京銀行への就職、2名は山口県内に拠点のある企業への就職ですので、山口県内に優良な企業があるという意識付けにつながっていると思います。

このほか、学生の意識面では、大学3年生の9月に夏休みを利用してツアーに参加することで、就職活動のスタートを切るよいきっかけになっていると考えられます。また、他大学の学生も参加しているため、学生同士の刺激がありますし、実際に企業訪問等で直に事実を見ることが貴重な経験になっていると思います。

一方、本年度は「若旅 in やまぐち」で訪問した中小企業から、ツアー参加者ではない当校の学生に内定が出ました。これは、ツアーに参加した当校の学生のイメージが企業側に残ったことで内定に結び付いた可能性があると思います。

—大学生への就職支援においてメリットを感じることは。

実際にキャリアセンターのスタッフがツアーに参加して企業を見ることで、地場の企業について知見を深め、具体的な企業を例にとって学生にアドバイスができるようになりました。

—「若旅 in やまぐち」における西京銀行の取組みに対する評価は。

ツアーにおける訪問先の選定などを旅行会社ではなく、観光地や企業など県内全体を見渡すことのできる立場の地域金融機関がコーディネートしていることが成功のポイントだと思います。

例えば、訪問する企業について、財務の安定性だけでなく、経営者の雰囲気など総合的に判断して選定している点で非常に安心感があります。そのため、学生本人だけでなく、保護者にも評判がよいツアーとなっています。

—「若旅促進プロジェクト」の課題や、今後より一層期待することは。

学生が、企画の実行だけに一生懸命になるのではなく、地域活性化等の目的を対外的にどうやってPRしていくか、あるいはどのように集客を行うのかといったレベルまで考えて行動するようになれば、よりよいプロジェクトになると思います。

また、関東や関西の大学に進学した学生の参加者を増やすことが課題だと思います。ツアー自体は2泊3日で15,000円のため低額

ですが、参加するために往復の交通費が嵩むことがネックになっていると思います。

—地方創生に向け、銀行に求められる取組みは。

全国各地で地域活性化に向けた協定等が締結されています。一方で、実効的な効果が出ていないケースが多い中、県内全体を客観的に捉え、地域を活性化させるためのプロジェクトを、融資等の資金提供を含めてアレンジすることができる地域金融機関の役割は非常に大きいと思います。

また、地方には人材集めに際して課題を抱えている企業が多いほか、観光地についても集客が課題であるなど、いずれも「人を呼び込みたい」という共通の目的があると思います。こうした状況において、「若旅 in やまぐち」のような取組みを進めることで、交流人口の増加や就職・定住につながり、地域の活性化に結び付くと思います。全国各地でも地域活性化に向けたプロジェクトを地域金融機関がアレンジする動きが広がれば地方創生に結び付くのではないでしょう。

(2015年11月24日)

「若旅 in やまぐち」就職者インタビュー

「若旅 in やまぐち」に参加し、訪問先企業へ就職した方々へインタビューを行った。

株式会社カシワバラ・コーポレーション 曾根氏（2015年入社、第1回目のツアーに参加）

—「若旅 in やまぐち」へ参加したきっかけと目的は。

私は大学で、若者の旅離れの抑止などを目的として、「若旅促進プロジェクト」という、若者向けのツアーを企画する活動をしていました。そのツアーの中で、山口県における企業訪問と観光地巡りを組み合わせたツアーを西京銀行と企画したのが参加のきっかけです。

—参加後の印象や意識の変化は。

ツアーには企業訪問があるため、スーツで参加しましたが、就職活動を意識してしまい、なかなか他の参加者とコミュニケーションが取れませんでした。しかし、企業訪問の間に観光地を巡ることで、他の参加者とのコミュニケーションを取る回数が増え、親睦を深めることができました。

また、ツアーの後半、企業訪問のときに感じたことや就職活動に対する考え方などを意見交換することができたので、充実したツアーとなりました。

このほか、早い段階で就職活動に触れることができ、就職活動へ意識の切り替えができたのでよい経験となりました。当社もこのツアーで知り、工場見学等を経て入社意欲が高まりました。

—「若旅 in やまぐち」に対する評価は。

地域貢献（地域の情報発信等）と学生の抱える悩み（就職活動）の解決をうまく組み合わせているツアーだと思います。

一方、改善点として、実施する回数を年2回程度に増やした方がよいと思います。なぜ

なら、この企画の認知度は高いとは言い難く、後からこのツアーを知る学生が多いからです。

私が参加したときも、参加後に、「こんなツアーがあるなんて知らなかった、参加したかった」と言う友人がいました。日程調整や収益面でも難しい所があると思いますが、回数を増やすことにより、より多くのメリットが学生・地域・企業にあると思います。

—地方創生において重要と考えるポイントは。

情報発信です。この若旅プロジェクトも地方創生を達成するための手段のひとつになりますが、それを狭い地方の中だけで周知・認知しても効果は限定的です。より大きな効果を得るためには広い範囲に向けて情報を発信する必要があります。

まず、地域を知ってもらう事で目を向けてもらい、足を運んでもらうことにより地域活性化に貢献できると思います。どの地域でも、その土地のよい物・企業はあるので、それらを全国へ発信し、知ってもらうことが地方創生のポイントだと思います。

（2015年11月30日）

西京銀行 江村氏（2015年入行、第1回目のツアーに参加）

—「若旅 in やまぐち」へ参加したきっかけと目的は。

大学院1年生のときに、就職活動を意識して参加したのがきっかけです。就職対策の授業では夏のスタートダッシュが大切だと言われていましたが、具体的に何をすればよいかわからない状況でした。その時期に就職支援課でこのツアーを知り、観光地を回ることで夏休みの思い出になると同時に、企業訪問により就職活動も両立できる点に魅力を感じて参加しました。また、参加費が2泊3日で15,000円という安価である点も後押しとなりました。

—参加後の印象や意識の変化は。

出身は山口県ですが、大学時代に九州にいたことから福岡県で就職しようと考えていました。しかし、それまで知らなかった魅力的な企業を多数見て、山口県で就職することも選択肢となり、意識が変わりました。

また、実際に企業の仕事現場を見ることで、「働く」ということを具体的にイメージできるようになりました。西京銀行に就職したのは、当時、ツアーコンダクターのような立場で熱意を持って仕事に取り組んでいた西京銀行の赤井さんの姿を見たのがきっかけです。

このほか、訪問先の企業の人事の方から食事会などでアドバイスをもらうこともあり、自分の職種の適性などを客観的に捉えることができました。

—「若旅 in やまぐち」に対する評価は。

県内有力企業の役員クラスの方から、自社の強みや考え方について熱意を持って説明してもらえるほか、企業の方々と食事会も行われます。そこでは、業務内容だけでなく、

直に社内の雰囲気を感じることができるため、実際に入社したときのギャップは生まれにくくなると思います。

また、山口県は人口減少や高齢化が進んでいますが、訪問先企業の方々がその問題を踏まえつつ成長戦略を描いていることを知り、安心感にもつながると思います。

ただし、ひとつ改善点を挙げるとすると、日頃触れることができない BtoB の企業を見ることができる点が大きな魅力である反面、募集人材は技術職が多いため、就職だけの観点で見ると企業と文系学生とのミスマッチがあると思います。

—地方創生において重要と考えるポイントは。

特に山口県の場合は2次産業に強みがあるので、そういった企業が元気になることで雇用が増えてお金の循環もよくなり、地方創生に結び付けてくると思います。

そのほか、観光業の活性化も必要だと思います。2015年のNHK大河ドラマは山口県を舞台にした「花燃ゆ」でしたが、観光客の増加はPRの上手さにも左右されると感じました。明治維新から150周年となる2018年はイベントも増えると思うので、効果的に宣伝を行って盛り上がることを期待しています。

（2015年11月24日）